

第50号

図書館報



津山工業高等専門学校

巻頭言

人間は言葉を用いて思考しています。映像や音声など非言語的な思考が脳内で展開されることもあります。それでもそのイメージの解釈には言葉が用いられます。さまざまな概念も言葉によって定義されているので、その概念を理解できる言葉が自分が持っていないと、新しい概念を理解することができません。

言葉や概念を100個しか持っていない人は10000個持っている人と比べて思考に限界が生じるということです。これは例えば、同じ現象を見ていても解像度が異なって見えているようなものです。一方はSD画質で認識し、もう一方は4Kでより精緻に物事をとらえています。同じものを見聞きしても何も気づかない人と多くのことに気付ける人の差です。

どのような教科を学習する場合でも必要になるのは言語能力であり、読解力の高低が学習速度、理解度を左右します。言語能力、読解力を高めれば論理的思考力も高まります。あらゆる学習の基礎となる国語と数学はしっかり学びましょう。数学は数式と記号ばかりだと思かもしれませんが、これも言語のひとつです。言語能力の高い人は論理的思考も得意なため、国語も数学もどちらもできるようになります。

物事の理解には論理的思考だけでなく直感やひらめきも大事であるといえます。直感やひらめきの淵源が何かというのは難しいテーマで、未だ明らかにされていません。直感をキャッチしたりそれを解釈したりするときに、脳内の引き出しの多さによって、直感を生かせる人とそうでない人の差が生じることはあるかもしれません。

近年、学習教材も書物に加え音声教材、動画教材も普及してきました。学生の皆さんも遠隔授業でこれらを多用して学習してきたと思います。動画や音声の内容を理解するのに読解力が必要で、それは言語能力に依存します。

インターネット上のバラエティ動画は本質的にはテレビのバラエティ番組と同じであり、視聴時間が長くなるほどあなたのIQを低下させていることに気付くべきです。息抜きに視聴しても構いませんが短時間にとどめておきましょう。

読書をすることは多くの知識を吸収できるのと同時に、結果として言語能力も高めています。ほとんどの場合、中毒症状というのは害をもたらすものですが、活字中毒になっても利点こそあれ何の害也没有ありません。活字に触れている時間に比例してあなたの知能、IQは向上します。だからと言って無理やりページを開くのではなく、まずは興味を持てるもの、楽しく読める書籍から手に取り、そこから派生して幅を広げていけば良いでしょう。



校長
磯山 武司

— CONTENTS —

先生お薦めの本	3
ブックハンティング新刊紹介	6
図書委員活動報告	8
文芸部員お薦めの本紹介	10
校内読書感想文コンクール	11
ご存知ですか、図書館の使い方	14

先生お薦めの本

先生から学生へのお薦めの本を紹介します



電気電子システム系 山本 綱之

理系の方への ファンタジーの薦め

学生の皆さんの勉学に役に立つ専門書は、知識と経験が豊富な他の先生方が色々ご紹介くださっていると思いますので、少し趣を変えて、私の好きな作家（とその作品）を紹介したいと思います。

「理系のくせに」と思われる方もいらっしゃると思いますが、私は歴史や伝記等のノンフィクションよりもフィクション、特にいわゆる「ファンタジー」に分類される作品が幼少時から好きで良く読んでいます。何故なのかと問われると確固とした理由が自身にも分からず答えに窮してしましますが、恐らくは、ファンタジー系の本を読んでいる間は現実世界とは隔絶された世界観を感じ、現実逃避をすることができるからなのでしょう（現実世界にいるのがつらい、ということではありませんのであしからず…）。ファンタジーを紡ぐ作家は数多くいらっしゃいますが、その中でも私がお薦めするのは宮澤賢治です。あまりにも有名で、もはや推薦図書として挙げるのが憚られるほどではありますが、それでも敢えて挙げさせていただきます。

宮澤賢治は童話作家として知られていますが、彼の作品は子供だけでなく大人も引き込まれそして深く考えさせられる、不思議な世界観の作品であると感じています。私が初めて読んだ宮澤賢治の作品は彼の代表作「銀河鉄道之夜」です。当時、小学生だったと思いますが書いてある内容が私には難解で、それでも、夏の夜空を汽車が走る光景、そしてきっとその汽車の窓から見えていたであろう美しい星々を想像して、幸せな気持ちになったことを覚えています。それから今日に至るまで何度となく読み返し、また朗読を聴きに遠出したこともあります。不

思議なことに何度触れても飽きることなく、反対に、この作品に触れるたびに新しいことに気づかされ考えさせられると感じています。主人公のジョバンニやその親友のカムパネルラがこの場面では何を感じ考えていたのだろうか、ジョバンニやカムパネルラのクラスメートのザネリがジョバンニに悪口を言うときの心境や最後の場面でカムパネルラのお父さんが周囲の方に向かって喋るときの心境はどのようなものだったのか、この物語が終わった翌日以降、ジョバンニは一体どのように生きていくのだろうか、序盤に登場する「天気輪の柱」とは一体何だろう等々。ファンタジーだからこそ、自身で自由に想像し解釈して思考を巡らせることが許されるのかもしれませんが。

普段の生活で疲れたり、ちょっと嫌なことがあったりしたときは、ファンタジーを手にして休憩してみてください。ひょっとすると、それが問題解決の糸口になるかもしれませんよ。



電気電子システム系 中村 直人

『線形代数講義（増補版）』

石井 恵一：著（日本評論社）

私がこの本を始めて読んだのは、大学3年の春休みでした。当時の習慣で、本屋で気になった本を買っては、読まずに積んでいた本の1冊でした。私は大学の1年次に線形代数の講義を履修しましたが、そこで学んだことは無味乾燥な行列の計算方法や、線形独立の条件が何とかという、当時の自分には何の役に立つのかさっぱり解らないことばかりでした。その経験から

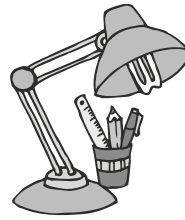
線形代数には強い苦手意識を持っていたのですが、2か月後の研究室配属（モータ制御研究室）を目前に、線形代数の必要性を強く感じ、積読の山から引っ張り出してきたのです。結果的に、この本により私の線形代数アレルギーは完治しました。

この本は雑誌「数学セミナー」の連載をまとめたものです。こう書くと少々敷居が高い感じかもしれませんが、幸い本書の内容に難しい雰囲気はなく、前提知識なしに高校生でも読めると思います。ページ数は200ページ程度ですが、読み終えたときにはこの3倍のページを読破した気になるほど、密度の高い本です。語り口は丁寧かつユーモアに富んでおり、好きな講義を受けられるような感じで、本書を読み進めることができるのではないかと思います。

さて、この本の魅力は線形代数の本質を分かりやすく、詳細に説明してくれるところにあります。特に、「行列とは線形変換・写像の表現である」ということは、私にとっては衝撃でした。それまでベクトルと行列計算は、連立方程式の解を求めるもの、という程度の理解でしたが、上記の本質を知ることによって一気に世界が開けたように思ったものです。例えば、微分、積分は線形変換です。工学の重要な道具であるフーリエ変換やラプラス変換、 z 変換も線形変換です。これらの一見複雑な数学概念を、行列というシンプルな表現を通して捉えられることが、本書を読んで初めて分かったのです。このことは、フーリエ変換や z 変換を理解する上で大変助けになりました。本書は線形代数の基礎的かつ重要な事柄を、一貫して線形変換の視点から解説しています。他の本で本書のように線形代数の本質を巧みに解説した本にはいまだに出会っていません。

本校の学生の皆さんは線形代数をすでに勉強したか、あるいは勉強している最中かと思います。履修してみてどうでしょうか？なぜ、講義名が行列とかベクトルの名ではなく“線形”代数であるのか、分かったでしょうか？行列の計算方法（行列の積、逆行列、ランク、対角化、固有ベクトルなど）やベクトルの1次独立 or 従属の判別法、内積、直交基底、などを勉強したとき、それらが何を意味しており、どう

活用できるのか、イメージできたでしょうか？これらは線形代数の基本的な概念ですが、先に述べた線形変換・写像との関係を理解することで、今までとはまったく違った側面（裏側？）から見ることができ、具体的なイメージを掴むことができるようになるかもしれません。そのためには、本書は理想的な教科書ですので、一度手に取って読んでみることをお勧めします。



情報システム系 田中 郁昭

『ヒトラー全記録 20,645日の軌跡』

阿部 良男：著（柏書房）

（1）推薦理由

戦後75年が経過し、世界のあらゆるところで自国優先の風潮が蔓延しています。日本もまたアジア近隣諸国との間で、過去の戦争が原因で摩擦が生じています。平和な時代を歩んできた私は「日本はこの先、絶対に戦争しないし、二度と戦争に巻き込まれることもないだろう。」という思いをこれまで疑うこともありませんでしたが、今のご時勢では、もしかすると、その考えを捨てなければならないと感じる昨今です。

私が、皆さんにこの本をお薦めするのは、なんとなくきな臭い時代になりつつある世界情勢の中で、平和や人権の大切さを少しでも心の中に刻んでもらいたいと思い、あえて先の戦犯とされるアドルフ・ヒトラーやナチスに関連する図書を紹介することに致しました。

（2）この本の主張

人類は二度の大きな戦争を経験し、「国家と個人のあり方」や「人権尊重」という現在の民主政治の考え方を勝ち取ってきました。この本では、「第一次世界大戦だけでその考え方に、何故、行き着かなかったのか。」という問いかけから始まります。そして、第一次世界大戦後に経済的、社会的に追い詰められたドイツ国民は、国家や民族の利益を優先させる全体主義へ

と向かったこと。また、戦勝国も依然として自国の利益を追求する動きを変えないことはなく、それが自分たちの幸せにつながると信じていたこと。つまり、そこには他国や他民族を尊重する考えは全くなく、第二次世界大戦が勃発するまでの期間がわずか21年であることを考えれば、実は第一次世界大戦は完全に終わっていないのではないかという考えに至っています。そして、“人権尊重”の夜明けは、次の大戦を待たなければならなかった現実に対して、人類の愚かさを悲しんでいます。第一次世界大戦で約1,000万人、第二次世界大戦で約6,200万人の死者をだし、その悲惨さを経験して人類がようやく気が付いた価値観です。しかしながら、一度“平和や人権尊重”を勝ち取った国でも永遠に続く保証はどこにもないこと。ここ数年、隣国との摩擦が生じる中、日本でもヘイトスピーチのような人権を踏みにじる動きが活発化している様子を見てみると、経済の困窮や社会情勢に不安を感じている時に、「その心理状態と社会組織の構造を利用して第二のヒトラーが誕生するのは、いともた易いこと」への警鐘を鳴らしています。これからはグローバル化が増々進み、多くの国の国力が拮抗することが予想され、争いが増えるのも自然な流れです。決して第二のヒトラーを誕生させないためにも、皆さんには、この本の一読をお勧めします。



情報システム系 森 理也

『マルクス・アウレーリウス 自省録』

マルクス・アウレーリウス：著

神谷 美恵子：訳（岩波書店）

紹介する本は、マルクス・アウレーリウス著「自省録」です。高専生に向けた本の紹介ということで、専門分野の本や流行の本などあれやこれやと迷ったのですが、これから人生を歩んでゆく皆さんに長く寄り添う本を、と思い本書

にしました（余談ですが、専門に関わる本では、ラマチャンドラン著「脳の中の幽霊」を考えていました。興味があればどうぞ）。この「自省録」は自分の敬愛する大学の先生がお薦めしてくれたものです。先生はその時、「家にある自己啓発書は全部捨てましょう。これ一冊あれば十分です。」と言い放ちました。半信半疑でとりあえず買ってみましたが、たまに思い出してはページをめくる、ということは何年か繰り返すうちにじわじわと好きになってきて、今ではとても気に入っている一冊です。

この本はどのページをめくっても1ページにも満たない戒めのようななんだかよくわからない短い文章が並んでいる変な本です。それぞれの文章は特に関連がなく、どこから読んでも構いません。著者のマルクス・アウレーリウスは2000年前のローマの皇帝であり、哲学者です。哲学書に分類されることも多い本書ですが、中身はそれほど固いものではありません。この本は2000年前に生きた著者の日記のような日々の覚え書き集です。「〇〇であらねばならない」、「〇〇と考えるべきである」など一見他人への説教のようにも見えるこれらの文章は、読むうちに彼が自分自身へ言い聞かせようとした反省文である事が見えてきます。その文章からはその日にうまく行かないことがあって、ああすればよかった、こうすればよかった、と思い悩む彼の姿が見え隠れします。昔の人も驚くほど現代と同じ悩みを抱えています。人間関係、権力争い、自己顕示欲、金銭トラブルなどなど、その日その日で悩みは変わり結論も変わるので、この本は一貫性のある思想書のようなものではありませんが、より自分を高めよう、より良く生きようと足掻き続ける著者の日々の決意の集合体です。

この本を一冊カバンの中に入れておきます。落ち込んだとき、うまく行かないとき、適当にページを開いて一つだけ読んでみます。書いてある内容はバラバラです。なんとなく今の気分に近いときもあれば全く関係の無い内容の事もあります。読んでも意味のわからないこともあります。でもどれを読んでも背筋がちょっと伸びた気がして、少しだけ前に進む勇気をもらえる、そんな本です。

ゼロからトースターを作ってみた結果

トーマス・トウェイツ：著（新潮社）

自分独りで生きていける。少しでもそう思ったことはありますか？

では手始めに、その辺のトースターを分解してみてください。家電製品を素材から作り上げる、前代未聞のエンジニア・プロジェクトが始動。果たして、その行く末や如何に。

ブックハンティング

楽園の鳥

阿部 智里：著（文藝春秋）

世界で一番美しい病原体と薬のミクロ図鑑

コリン・ソルター：著（エクスナレッジ）

ペニシリン、抗ヒスタミン薬の結晶、1ドル紙幣に付着した大腸菌、マダニの体表のライム病菌、それと変異前のコロナウイルス…。ミクロな世界を、彩色処理された電子顕微鏡の画像で収録。複雑な造形を落とし込む、それは現代科学の叡智。

『烏に単は似合わない』から始まる八咫鳥シリーズ第二部一巻。緻密な世界観で描かれる和風ファンタジー小説は、漫画化もされている。第一部六巻である『弥栄の鳥』の20年後を描く今作。外界から山内に「幽霊」に連れてこられた人間、安原はじめは山内を、雪哉をどう思うのか。貴族出身で雪哉の部下である頼斗は、はじめとどう対峙するのか。山内と人間と八咫鳥の関係は徐々に変わっていく—— 待望の二部第一巻。

超二流

野村 克也：著（ポプラ社）

すべての人は、何かしらの可能性を持っている。超一流にはなれないが超二流にはなることができる。凡人でも才能を開花さえできれば、天才や一流にも勝つことができる。今は亡き野村克也さんの「選択と集中」の極意とは。

日本史のネタ全書

歴史の謎研究会：編（青春出版社）

実はこうだった日本史の裏側。みんなが知っている織田信長は実は…。あなたの好きな武将や好きな出来事の裏側も。日本人の多くが知らないあの出来事の裏側を大公開。これを読めば人に言いたくなること間違いない。



新刊紹介

経済学見るだけノート

木暮 太一：監修（宝島社）

経済学と聞くとよくわからないもの
と考えがちですが、私たちの日常生活
にとっても関係しています。

この本は大学で学ぶ経済学の基本が
イラストでわかりやすく書かれており、
読むとニュースで出てくる知らない言
葉もわかるようになり、社会やお金の
仕組みの理解が深まると思います。

メモの魔力

前田 裕二：著（幻冬舎）

僕が尊敬する起業家の一人である前田
裕二さんが送るメモ専門書。この本を読
むことで、五感で得られた情報全てをア
イデアに変えたり、本当の自分を見つめ
直したりして、夢をかなえられるかも！
就職や進学を控えたあなたにぜひオス
スメしたい本です！

すごいプレゼン

堀江 貴文：著（宝島社）

「大事なプレゼンを控えている！」
「プレゼン苦手…」「相手に思いを伝
えるのが苦手…」そんな君にぜひ手に
取っていただきたい一冊！

これを読めば、プレゼンに対する思
いが変わり、ビジネスや日常生活を一
歩前進させられること、間違いなし！

3色だけでセンスのいい色

ingectar-e：著（インプレス）

資料を作る時、パンフレットを作る時、
ポスターを作る時、配色が決まらなくて
困ってしまう時…に参考にしたい本。

3色でセンスのいい資料を作りたい！

もう配色で悩みたくない！

そんな悩みを解決してくれるかもしれ
ません。

個人事業の始め方

中野 裕哲：監修（西東社）

現在岡山では創業ブームと感じていま
す。さらに学生起業家も全国で次々と増
えています。進学・就職に次ぐ、第三の
進路「起業」を目指してみませんか？

この本では、個人事業初心者でも分か
るように解説されていて、この一冊です
べてわかります。

図書委員活動報告

図書委員は、弥生祭等催し物班、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています



弥生祭等催し物班

私たち弥生祭等催し物班は、「多くの人が本と出合えるイベント」の開催を目的として活動を行いました。

古本市の開催にあたり、古本を募集する呼びかけや本のディスプレイなど、班員で分担して活動に取り組んできました。新型コロナウイルスの流行により、



弥生祭での開催は見送ることとなりましたが、校内限定の1 Day古本市を企画・開催することができ、大変嬉しく思っています。来年度もお立ち寄りいただき、新たな本と触れる機会にしてくだされれば幸いです。

本を寄付してくださった方をはじめ、お力添えいただいた皆さん、ありがとうございました。

(先進科学系4年 白神 愛)

読書感想文コンクール班

私たち読書感想文コンクール班はなかなかみんなで集まることができず、活動を進めるのに苦労しました。しかし、Teamsで重要事項などの情報を共有し、最終的には集まって審査を行うことができました。読書感想文コンクールには、約120作品が集まりました。一次審査を通過した作品に1～3位の順位をつけましたが、どれも良



い出来だったので、悩みに悩んで選びました。今年は新型コロナウイルス感染症の関係で外出自粛期間があったこともあってか、感想文の内容が詳しくて、読んでいてとても面白かったです。

来年度もたくさんの応募をお待ちしています。

(情報システム系4年 石塚 飛翔)

ブックハンティング・交流会班



私たちの班は、ブックハンティングを行いました。今年は、新型コロナウイルス感染症の対策をしっかりと上で、実施しました。10月に岡山市の宮脇書店を訪問し、班員がそれぞれ学習や教養に役立つ本を選びました。また、津山市立図書館でも1人30冊ずつ選びました。

この度購入した本や選んだ本は津山高専の図書館に並んでいます。学生の皆さんの役に立つ本が数多く追加されたので、ぜひ図書館にお越しください。

そして例年は他校との交流会を行っていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で実施できませんでした。来年度はぜひ開催できたらいいなと思います。
(情報システム系5年 福島 翔吾)

図書館報班

私たち図書館報班は、図書館利用者の増加を目的として図書館報の制作活動を行いました。

本館報制作にあたり、先生方、弥生祭等催し物班、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、文芸部の皆様にご協力をいただきました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響



で始動が遅れ、急な締め切りを迫ることが多かったように思いますが、皆様のご協力のおかげで今年度も無事に館報を発行することができました。この場を借りて、ご協力くださった皆様にお礼を申し上げます。

(機械システム系5年 弘岡 蒼麻)

文芸部員お薦めの本紹介

海の底

私が皆さんにお薦めしたい本は、有川浩さん著作の『海の底』という作品で、2005年6月に出版された、小説作品です。

あらすじ

桜祭りで一般向けに解放された、米軍横須賀基地に突然海から現れたザリガニのような見た目をした体長1～2mほどの謎の甲殻類「レガリス」の大群が次々に人に襲い掛かった。本作のキーパーソンである二人の自衛隊員、夏木^{なつぎ}大和^{やまと}三尉と冬原^{ふゆはら}晴臣^{はるおみ}三尉は逃げ遅れた13人の子供たちを連れて、基地内に停泊中の海上自衛隊潜水艦「きりしお」に逃げ込むことに成功した。しかし、艦の停泊地が米軍基地内であることから、迅速な事態の解決と救助は望めず、自衛隊員二人と13人の子供たちは「きりしお」内部に孤立した状況に置かれてしまう。抑圧された環境下で、いつ救助が来るか分からないという恐怖の中、子供たちの間で軋轢が起き、歪んだ人間関係が明らかになりつつあった。

また、潜水艦の外では海から現れたレガリスの大群に人が襲われるという非常識な事態に戸惑いながらも、自衛隊への主導権移行には及び腰な警察。他国が基地施設に介入することを良しとしない米軍。さまざまな思惑がうごめき、対応が錯綜する中、市街地へ侵入したレガリスの圧倒的な数とと強靱な生命力、容赦ない襲撃に対して、市民救助のため前線に立つ神奈川県警機動隊は凄惨な戦いを強いられることになる。

作品の魅力

私の考えるこの作品の魅力は、「きりしお」内部と外の世界との対比構造にあります。

外の世界ではレガリスにどう対処するか、を主軸に据えているのに対して「きりしお」内部ではどのように脱出するかとか、レガリスにどう対抗するかよりも、救助されるまでどう耐え忍ぶのが主軸にあります。そのため、「きりしお」内部での子供たちの小競り合いや、恋愛感情の芽生えなど、外の世界との対比が良く描写されています。だからこそ子供たちの人間的な成長や人間関係の変化を、より強く感じられるのだと思います。

そして、作者である有川浩さんの心情描写が巧みであるために、レガリスに対する恐怖感や救助を待つことしかできない焦燥感、それに恋愛描写でのドキドキ感を非常に感じやすい良い作品だと思っています。

また、この作品は有川浩さんの書いた自衛隊三部作の『海』での作品であるため、この小説に少しでも興味がわいて、読んでくださったとしたら、他の『陸』と『空』の作品も読んでいただけるとより楽しめるかもしれません。

海の底

有川 浩：著 （メディアワークス）

校内読書感想文コンクール

図書委員が優秀作品を選出しました

第1位

「コミュ障」とは

1年2組 江見 大夢

今もなお言われているのかは分かりませんが、少し前、「コミュ障」という言葉がネット上で飛び交っていたのをご存じでしょうか。

「コミュ障」とは、「コミュニケーション障害」の略称で、発声器官や知覚機能に障害を持ち、医学的に問題を抱えている状態を指します。しかし、ネット上で飛び交っていた「コミュ障」は、スムーズに話ができない状態を指しているのです。結論を言ってしまうと、ネット上で飛び交う「コミュ障」は間違った使い方で、若者が人を軽蔑する時に使ったせいで、ネット上で広がってしまったものと書かれています。

この本には、スムーズに話すことのできない人の心の内も考察されていて、著者自身の体験も書かれています。例えば、「エレベーターの中での、コミュニケーション無しでは少し不自然な距離感」というような、社会生活においてとても共感できるものが多いです。

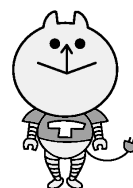
この本の著者・吉田尚記さんは、ラジオ・ニッポン放送のアナウンサーで、人と会うことが非常に苦手で、「コミュ障」と自認している人です。だからこそ、自分も含め同じ境遇の人たちは、深く共感できるのだと思います。自分自身も、幼少期からスムーズに話せるような子供ではなかったことは自覚しています。人を見るなり目が鋭くなり、すぐに人の性格を知った気になってしまう、

いわゆる「人見知り」の子供でした。今でもとても活発とは言えない性格ではありますが、小学生の頃にこの本を読んでから、人との接し方や新しい考え方、そして自分への自信も次第にわくようになりました。その当時、一番の課題だったのは、人の目を見て聞く・話すということでした。それも自信を持てたことにより、克服できるようになり、コミュニケーション能力が向上したように思えます。

この本を読んで学んだことは、「人を見かけで判断しないこと」、「自分を過小評価しないこと」です。人は内面によって、敵にも味方にもなり得ると分かりました。人をじっくり観察し、内面を知ること、信頼できる関係になれるのではないかと考えます。また、自分を下げすぎると、自信を失い、コミュニケーション能力に影響が出てしまうのではないかと思います。

私はこの本を小学生の頃に読めたことを幸運に思っており、これからの生活で活かしていきたいと考えています。

(吉田 尚記『なぜ、この人と話をするとなぜ楽になるのか』)



第2位

加害者と被害者の違い

1年2組 河村 滯奈

薄暗い背景に、机と椅子が一セット置いてあるだけ。なんて寂しい表紙なのだろうと思いながらその本を手を取った。「告白」というタイトルから、恋愛ものなのかと考え、表紙の寂しさから、何か重たい内容なのかと考えた。好きな作者ということもあり、期待と疑問に胸を膨らませていた。

この本の第一章「聖職者」の主人公は、教師である森口だ。森口は帰りのホームルームで、教師を辞めることを伝える。そして、教師を辞めるということもあってか、普段であればしないような話を生徒たちに話し出す。森口は、「私はH I Vに感染している。今、みんなの牛乳に私の血を混ぜた。」と告白した。この物語は、森口が残した告白により、少しずつ変わっていく生徒たちを描いている。

森口は実の娘である愛美が、自分のクラスの生徒である修造と直樹の手によって殺されたことを知る。そして、自分の教師生活最後の日に、先の告白のようなことを行ったのだ。

このことから、直樹は不登校に、修造はクラスの全員から無視されるようになる。この時、修造は、いじめを「制裁」として受け入れて、何もやり返さなかった。私は読みながら、このクラスは異様なのではないかと思った。しかし、もしも自分が二人の周りにいた人と同じ状況ならば、自業自得だと思ってしまいそうで、このクラスだけではなく、自分の考えにも恐怖を覚えた。いじめをしょうがないことと考えることがあってはならないのに、実際にいじめが起こっているところでは、そういった考えをしている人もいるのかもしれないと感じた。

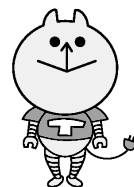
しかし、修造と直樹は、なぜこのような罪を犯してしまったのだろうか。このことが書いてあるのが、第四章「求道者」だ。直樹は母親からのプレッシャーで、心の拠り所をなくしていた。そんなある日、普段は話さない修造に誘われ、彼の作った道具で悪い人を懲らしめようと言われた。せっかくできた友達に嫌われたくなかった直樹は、嫌いな担任、森口の娘である愛美の殺害を提案する。

この話を読んだ時、誰かを傷つけることで優越感を抱き、ストレスを発散させる直樹と修造に、なんて可哀想な人なのだろうと思った。特に直樹は、ようやくできた友達を失いたくないという理由だけで、後先を考えずに犯罪に手を染めている。もっと他に方法があったのではないかと思う。

この本を読むまで、「いじめをする人の神経が考えられない」と言い、自分はいじめる側には絶対に立つことはないだろうと無意識に考えていた。悪く言えば、その問題について無関心だった。ところが、いじめをしていたクラスの人たちの感情に、共感してしまうところがあったり、罪を犯した二人に対して嫌悪感を抱き、こんなことをしたのだからしょうがないと思ってしまったりした。そのことから、自分がいじめる側の人間になる可能性もあるのだと考えた。よく、「いじめはよくない。見て見ぬ振りをするのもいじめと同じ。」と言う。それはあくまでも、自分がいじめの主犯格ではないことが前提であるが、自分が主犯格になるかもしれないということをもっと世間に伝えるべきだと思った。

この本の内容はとても重たく、簡単に読めるようなものではないが、もっとたくさんの人に読んでほしい。誰もが被害者にも加害者にもなれるということが、心に染みる作品だ。私は、加害者にも被害者にもならず、いじめを止めることができるような強い人間になっていきたいと思う。

(湊 かなえ『告白』)



第3位

理解する

機械システム系2年 森寄 智里

—「嘘をつくのは、その子がひとりぼっちになりたくないからですよ。嘘をつかないとひとりぼっちになっちゃう子が、嘘をつくんです。」—

村内先生のこの言葉が頭から離れず、引っかかっていた。何に心を動かされたのか自分でも言葉にできずにいて、もやもやとしたものが残っていた。しかし、何度も何度もこの言葉を読み返しているうちに焦点が合った。そして、村内先生が私に向けて言った言葉に思えてならなかった。今、先生が、私に向けて言っているような気がする。「間に合って良かった。」と。この本の九番目の主人公は、私自身かもしれない。

学校生活のあまりの苦しさに場面緘黙症になってしまった女の子。いじめられていた一人の生徒の自殺未遂で加害者となったクラスと彼。父親の自殺の苦しみを一人で抱える少年。両親に虐待されて育った子—。心に深い闇を持った少年少女のところに、国語の非常勤講師、村内先生がやってくる。先生はうまく話すことができない。吃音のためにつっかえてしまうのだ。だから、大切なことしか話さない。そして、大切なことだから、顔を真っ赤にしながらも、肩で息をしながらも、一生懸命に話す。そんなひとりぼっちの八人の子供たちと村内先生との話が綴られてあった。

私は小さい時から勉強は得意な方だった。そうして足を引っ張られたことを今でも忘れられない。小学三年生の時だった。真面目に勉強していたら、「いい子ぶっている」と言われた。人間が怖いと思った。それから私の心のバリアは硬くなった。今でも打ち破ることはできていない。

最も顕著だったのは、テストが返される時間だ。点が悪ければ馬鹿にされ、ならば反対に良かったらいいのかというと、現実はそうではなく、「やっぱりあなたは違うわ」というように壁を隔てられ、別扱いされた。そんな友達関係の中で、私は等身大で悔しがったり、喜んだり、笑ったりすることが、いつの間にかできなくなった。知られたくないことが増え、誤魔化すようになり、嘘をついてしまったこともある。そのたびに、心の内側

の黒くドロツとしたものが大きくなった。それでも自分を隠すための仮面が私には必要だった。みんなに好かれる自分の仮面をかぶることが。

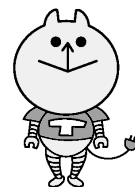
友達はたくさんいた。いつもみんなの輪の中にいて、ひとりぼっちではなかった。しかし、本当はひとりぼっちだったのかもしれない。真の友達ができた今だから、認められるのだろう。もうひとりぼっちではない今だから、意地を張らないで受け止められるのだろう。

村内先生は、心に深い闇を持った少年少女のそばにいた。ほとんど会話はなかった。だが、もっともっと大きなものが、少年少女と先生との間にあった。理解し合う。そんな関係が確かにあったように感じた。

今の私には、いいところもダメなところも全てひっくるめて、私のことを好きでいてくれる友達がいる。それだけで十分だったのだ。私が求めているものは、たくさんの友達に囲まれて過ごす、形だけのひとりではない毎日ではなく、たった一人でもいいから、その人に理解してもらえる毎日だったのだろう。

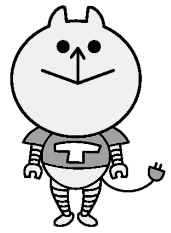
十番目の主人公は、今どこで何をしているのだろうか。どんなことを考えているのだろうか。私はその人に、「君はひとりぼっちではない」と伝えられる人間になりたい。痛みを理解できる人間になりたい。そのためには、苦しいこともたくさん経験し、喜びも悲しみも苦しみも全て理解し、共感できる、奥行きのある人間にならなければいけない。自分が抱えてきた「生きにくさ」をまだ見ぬ誰かに繋ぐこと。それが私の使命なのではないかと、『青い鳥』を読み終えた今、強く思う。

(重松 清『青い鳥』)



ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム



本を借りる

 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。

 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。

Topics!



図書館ツイッターやっています。
@TsuyamaKosenLib



図書館にある本を探す

 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。

 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

📖 全て図書館に所蔵しているわけではありませんが、多くの卒業研究が図書館奥の集密書架にありますので、探してみましょう。なお、一部を除き持出・複写不可です。

パソコンを利用する

📖 PCは総合情報センターアカウントでログインして使えます。

📖 プリンタは両面印刷可能で、カラー印刷はできません。節度ある利用を心掛け、安易な大量印刷は控えましょう。

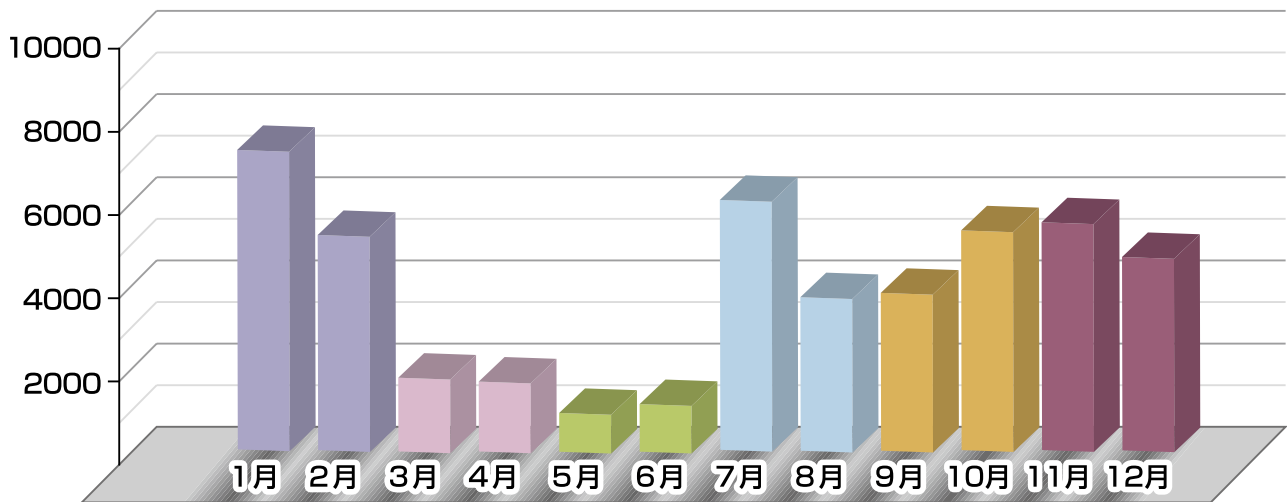
📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。

📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申し込めましょう。

入館者数 2020

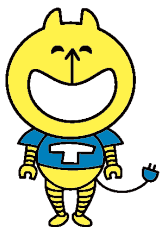


貸出ランキング 2020

(期間：2020年1～12月)

No.	書 名	著 者	出版社
1	編入数学徹底研究	桜井基晴	聖文新社
2	公式TOEIC Listening & Reading問題集	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会
3	環境工学	石井一郎	森北出版
4	切削・研削加工学	臼井英治	共立出版
5	有機半導体のデバイス物性	安達千波矢	講談社

編集後記



この度、図書館報班長を務めさせていただきました。私は昨年まで館報制作にはほとんど関わってこなかったことから、企画進行の勝手をよく理解していませんでした。そこに新型コロナウイルス感染症の影響が重なり、原稿を執筆してくださった皆様には多大な迷惑をおかけしたと思います。そのような中でも無事に本館報を発行することができたのは、ご協力くださった皆様のおかげです。

私はこれまで、授業に関する文献調査以外で図書館を利用することはあまり多くありませんでした。しかし、本館報の制作を通じて、自分の専門以外の広い分野の本を読むことも面白いと思うようになりました。近年は、レポートを書く際の文献調査にインターネットを利用した方が早いといった意見も耳にしますが、時折は図書館に足を

を運んで本を探してみてもいいのではないでしょうか。

最後になりましたが、原稿依頼を快く引き受けてくださった先生方をはじめ、本館報の制作に関わってくださったすべての方々にお礼を申し上げます。

(機械システム系5年 弘岡 蒼麻)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館